



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

介護福祉経営士 ニュース KFK News

2021
5.31
No.83

特集

LIFEシンポジウム開催

介護現場、ベンダー双方の 視点からより良いLIFEの 運用について考える

CONTENTS

特集 LIFEシンポジウム開催

介護現場、ベンダー双方の
視点からより良いLIFEの
運用について考える

2

●合格者の声

4

●第5回「介護福祉のみらい」
作文コンクール
入選作品掲載

5

●第6回「介護福祉のみらい」
作文コンクール
開催のご案内

●今月の「介護ビジョン」

6

●KFK INFORMATION

●「介護福祉経営士」

実践研修開催のお知らせ

●「介護福祉経営士」

資格認定試験のご案内

7

●イベント紹介

●WEB説明会のご案内

8

一般社団法人



日本介護福祉経営人材
教育協会

お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局
☎ 03-3553-2896 <http://www.nkfk.jp>

制作:株式会社日本医療企画

編集・発行人:林 諄

〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号
S-GATE八丁堀9階

介護現場、ベンダー双方の視点からより良いLIFEの運用について考える

2021年度介護報酬改定の注目要素であるLIFEについて、株式会社日本医療企画がシンポジウムを開催した。シンポジウムではLIFEを加算とコストの比率の悪い、単なる手間のかかる加算要件として捉えるか、今後の介護の潮流である科学的介護の要衝と捉えるかによって、介護経営上の意味合いが大きく変わってくる点が議論されたほか、実際に対応に苦慮する介護現場やベンダーの様子が語られるなど、介護事業者、ITベンダーによる意見交換が活発に行われた。本特集ではその概要を紹介する。

4月12日(月)、2021年度介護報酬改定をテーマとしたセミナー「介護事業者とケアテック事業者のための『科学的介護情報システム(LIFE)シンポジウム』」が開催された(共催:株式会社日本医療企画、一般社団法人日本ケアテック協会/協賛:一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会)。

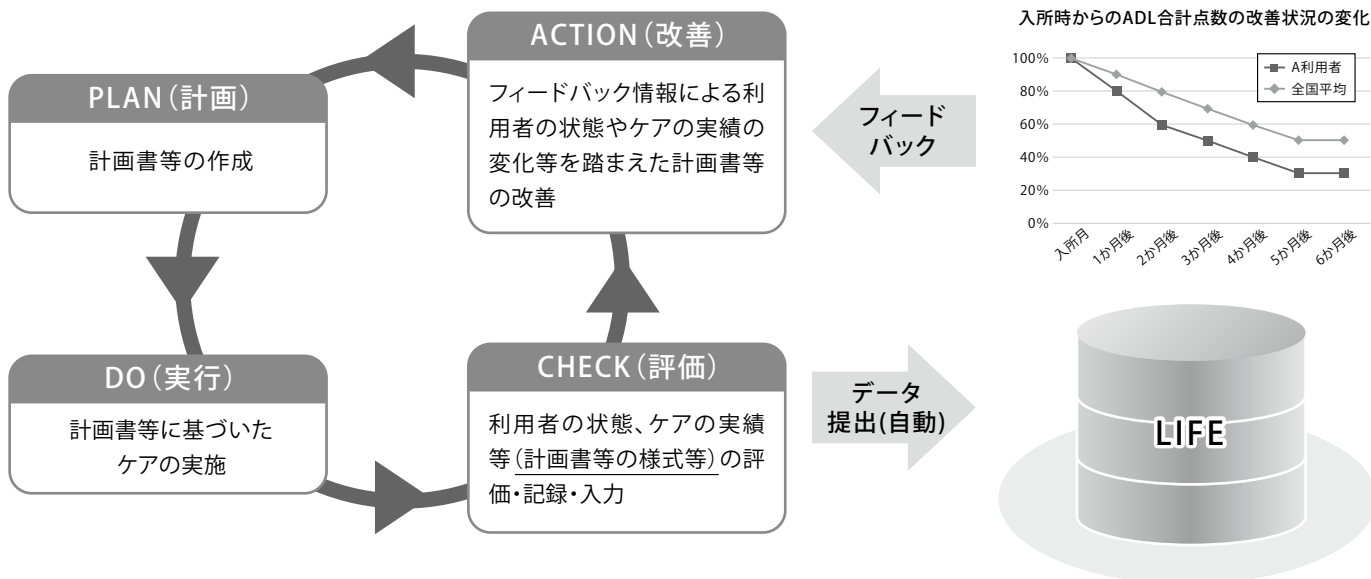
シンポジウムでは4月より稼働が始まった科学的介護情報システムLIFE(Long-term care Information system For Evidence)をテーマに、IT業界サイド、介護現場サイドから有識者が集まり議論が交わされた。

第1部では厚生労働省のICTに関する実証試験などに参画しているエヌ・デーソフトウェア株式会社より講師とし

て迫田 武志氏を招き、ベンダー視点からのLIFEに関する解説を行った。

迫田氏によれば4月中旬の段階ではベンダーによる各種テスト、厚生労働省への疑問点の確認などが行われており、走りながらさまざまな調整を行っている状態であるとの現状の様子が語られた。また統合前のデータベースであるCHASEにおいて、593項目であったインタフェースの項目が、1,941項目にまで増加しており、ベンダー側は可能な限りシステム内に必要項目をまとめ一気通貫で運用できるシステムづくりを目指していると述べた。現状では介護ソフトにデータの入力さえすればあとは出力されたデータをLIFE側にアップロードできる環境を構築するこ

LIFE (VISIT・CHASE) による科学的介護の推進(イメージ)



出典: 社会保障審議会(介護給付費分科会)資料第185回(R2.9.14)

とが求められており、最終的にはICT化を進めることで職員、利用者双方にとって快適な環境をつくっていくことが目標となると語った。

第2部ではファシリテーターとして竹下 康平氏(一般社団法人日本ケアテック協会事務局長、株式会社ビーブリッド代表取締役)、パネラーとして神林 飛志氏(株式会社ノーチラス・テクノロジーズ代表取締役会長)、小濱 道博氏(小濱介護経営事務所代表)、迫田 武志氏(同上)、宮本 隆史氏(社会福祉法人善光会理事、最高執行責任者、統括施設局長、特別養護老人ホームフロース東糀谷施設長)の4名を迎え、パネルディスカッションが行われた。

神林氏は、小売業界でのデータ連携環境の構築における自身の経験から、今回のLIFEには事業規模別の運用についての視点が欠けている点を指摘、LIFEを普及させるためには各事業所別の業務フローも視野に入れた対応が必要になってくると述べたほか、LIFEの運用をデータマイニング(データベースから情報を抽出し、自動的にパターンを発見する分析手法)の一種と位置づけた場合、一般的に3年程度、最短でも13か月程度はデータの蓄積が必要との見解を示した。また、ITに関してはセキュリティの問題や、技術的限界についてまだまだ課題が多くあり、単純に妄信するだけではなく、使用する側にも冷静に分析しながら使っていく姿勢が必要であると語った。

小濱氏は今回の試みは今まで誰も経験したことのない試みであり、介護業界の過半数を占める中小事業所がどこまで対応できるかという点については注視していく必要があると述べる一方、今後成果報酬型の加算が運用されるようになると仮定し、LIFEへの対応を先行投資として考える経営者は現時点からすでに動き始めていると語った。また、フィードバックデータをしっかりと活用し、PDCAを運用することができれば、経営的な差別化を図るチャンスであるとも述べ、LIFEへの対応を今後伸びる事業所と、停滞する事業所との分岐点と位置づけた。

迫田氏は、今回のLIFEの活用が介護データの標準化の第一歩であると語り、現状のAIケアプランで不足している「ケアに介入するためのデータ」の蓄積につなげることができれば、これまで容態の状態を予測するだけだったAIケアプランをより活用できるきっかけになると述べた。また、現状でベンダーに求められる役割は、介護事業者がLIFEを利用するにあたって、可能な限り負担の少ないシステムを

構築するための行政との調整役であるとも述べた。

宮本氏は今後提供される予定のフィードバックデータは相当量があると予測したうえで、それらのデータを使い自事業所が全国的にどのサービスレベルの位置にいるのかといった客観的視点も得られると述べた。そして今後の改正では、より踏み込んだアウトカム評価の指標や、施設の優劣がつけられるような内容が盛り込まれることも予想されるため、介護事業者にはLIFEに関する情報収集をより綿密に行ってほしいと語った。

最後に竹下氏は、今回の改正における科学的介護はこれまで以上に大きな波であり、介護の質の変容にもつながるのではないかと予測し、一法人や一企業だけでなく、介護業界全体で考えながら進めていき、より良いものにバージョンアップし続けるべきだと語った。

今回行われたシンポジウムでは、LIFEによって収集されたデータが今後の介護において重要な位置づけを任せていくであろうという点については介護現場側、ベンダー側双方の視点からおおむね肯定的な意見が寄せられていた。しかし、その一方で、システム構築の面や、実際の介護現場側の対応等に関して多くの課題があることも指摘された。

今回のシンポジウムのようにLIFEをいかに活用し、今後の介護経営においてどのように有益な存在としていくかについて、より多くの議論の場が必要とされている。介護福祉経営士の皆さんにはこうした議論の場を新しい活躍のフィールドとしていていただきたい。

参加者の声

今後、ビッグデータ集積のため、国は加算という名のもとにLIFEへの参加を義務化していくものと考えますが、どこから、どう手をつけたらいいのかわからない!というのが正直なところです。

介護事業、介護システム関係者の生の声が聴けて、有益であった。



地域の介護事業所を支える存在をめざしたい

石津 博子 ●いしづ・ひろこ

社会福祉法人いちのせき会 特別養護老人ホームあけぼの苑 総務部
介護福祉経営士2級

法人本部の総務部門で勤務しています。理事会や評議員会の準備、契約関係の調整、資金調達や請求関係が主な業務です。

前職は行政の福祉関連の部門に勤務していましたが、当時から介護業界に経営のことをしっかりと理解している人材がまだまだ少ないことを課題に感じていました。

介護福祉経営士の取得を決めたのは、そうした課題意識があったことも一因です。介護の分野で力を発揮していくためには経営に関することを一度きちんと学んでおく必要があると考えました。

実際に介護福祉経営士の勉強をした結果、特に「加算」に関連する内容について、これまでにどういった背景があり、これからどのような流れになっていくのかといった部分を体系的に学ぶことができたことが現状でとても役に立っています。

中小規模の施設にとって、加算をどう取得していくかは経営上の大きな課題です。

例えば、昨年開所した新しい施設に関しては加算の取得状況にまだまだ改善の余地があり、今後精査していく必要があると感じているため、そういった場面で学んできた知識を活かしていければと考えています。

また今年度は介護報酬改定の年にあたりますが、LIFE(介護データベース)への対応についても考えていかなければならないと感じています。

具体的な例をあげれば、当法人には管理栄養士が所

属しており、これまで栄養ケア加算のための体制がとっていましたが、今回加算要件にLIFEへの対応が盛り込まれたことにより、これまでのように加算を取得することが難しい状況になっています。

当法人で利用している介護ソフトに関してはLIFEへの対応が行われており、登録自体も行っていますが、実際に対応するにあたって誰がデータを入力するのかといった介護現場の体制面の調整が必要な段階にあり、対応には少し時間がかかりそうです。

こうした加算の一つひとつを詳しく理解できているかどうかは、当法人のような地域密着型の事業態をとっている場合、資金繰りにも大きく影響します。この点は今後の課題として優先的に取り組んでいきたいと思っています。

そしてこうした状況は当法人だけでなく、周辺地域全体の介護施設が直面しているようです。

今後の展望としては、まず運営している施設をしっかりと軌道に乗せ、そこで培ったノウハウを生かしてほかの施設にもアドバイスができるようにしていくことが目標です。地域の介護事業所と横の連携をとる際には介護福祉経営士資格を活かしていければと考えています。

介護福祉経営士という資格があり、その人に相談すれば役立つ助言をもらえるといった認識をもってもらうことで、地域すべての介護事業所が安定して事業継続をしていくためのお手伝いできればと思います。

介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士テキストシリーズは、「介護福祉経営士」の試験科目に対応しています。

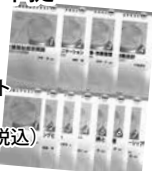
いまなら

「介護福祉経営士2級資格認定試験対策 — 合格サポートブック —」がもらえる!!

介護福祉経営士テキストのご案内

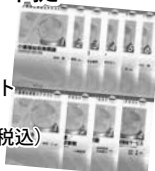
介護福祉経営士
1級試験 準拠

実践編
全11巻セット
特別価格:
26,190円(税込)



介護福祉経営士
2級試験 準拠

基礎編
全10巻セット
特別価格:
24,100円(税込)



「合格サポートブック」とは

- 「介護福祉経営士テキスト」基礎編(10巻)各巻の重要ポイントの解説を掲載
 - 予想問題を掲載
 - 第1回「介護福祉経営士2級」資格認定試験で実際に出題された問題を一部掲載。
- ※解説は(株)日本医療企画によるものです。

テキストのお申し込み、お問い合わせは株式会社日本医療企画ホームページへ
▶<http://www.jmp.co.jp/>

※株式会社日本医療企画へ直接お申し込みされた場合の価格となります。



vol.5

第5回「介護福祉のみらい」作文コンクール 入選作品掲載

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生が、介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する場として、2020年に第5回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施。全国から寄せられた551編から黒澤貞夫審査委員長（日本生活支援学会会長／浦和大学名誉教授）のもと厳正な審査が行われた。以下に入選作品を紹介する。

佳作

「温かい心の分かち合い」

とおやま ももか
遠山 萌々華さん

（岐阜県立大垣桜高等学校 福祉科 3年）

誰かの笑顔は私の心を温かくする。人と人とは言葉がなくとも、微笑みだけで、手を握るだけで温かさを伝えることができる。このぬくもりこそが、これからの介護福祉を担う私たちにとって最大の武器であり、最も重要なことであると言えるだろう。

超高齢社会に突入した今、日本では老老介護や高齢者虐待、介護者不足など、さまざまな介護問題が取り上げられている。高校で福祉を専門的に学んでいる私にとっては、どれも今後、自分たちが直面するかもしれないことばかりであると感じていた。そんな時、老人福祉施設での介護実習で「介護ロボット」の存在を知った。介護ロボットは、介護問題の解決策の1つとして近年多くの注目を集めている。

介護ロボットには、高齢者の自立を促すリハビリのほか、コミュニケーションをとるものも存在し、介護者の負担を減らす役割がある。私は便利だなと思う反面、これでいいのだろうかという気持ちをもった。AIの活用は介護の効率を上げ、現在の介護問題解決へと繋がるかもしれない。しかしロボットでは、人と人の温かさを伝え合うことができない。効率や負担削減ばかりを考えて、介護をただの作業にしてはいいのだろうか。私にはどうしても、そんなもどかしい思いがあった。

「今日の〇〇さんの手、温かいですね。」

という私の言葉にぎゅっと手を握り返してくれた利用者が

いた。その人は寝たきりで、主にベッド上で生活してみえるが、私が居室へ何うとにっこりと笑っていて、言葉を交わすとはなくとも、私の心が温かくなったことを今でも覚えている。

実習やボランティアに行くと、さまざまな人に会う。よく話す人、静かな人、ジェスチャーで思いを伝える人、自分で食事ができる人、介助が必要な人……。一人ひとりが身体状況や精神状態が違う中で介護を行うには、ゆつくりと時間をかけてよりよい関係を作ることが必要である。これは、私たち人間同士ができる温かさの分かち合いだ。

私は、誰かの笑顔が好きだ。手を握って微笑み合えば、それだけで温かい気持ちになれる。だからこそ、介護は私たち自身の手で行いたい。とはいえ、人手不足や超高齢社会が問題視されている今、AIの導入は仕方のないことなのかもしれない。人間にも限界があり、全てを完璧に行うことはできない。AIの急速な進歩が見られる今、手が足りない部分を「介護ロボット」に頼るのもいいだろう。しかし、私たち人間の繋がりである温かさを忘れてはならない。

将来私が介護される側になった時、介護者の手をぎゅっと握り、温かさを分かち合える関係になれているように、今ある課題から目をそらさないことが大切だ。まずは私が。そして、日本中、世界中の人々が温かい心をもつことで、これからの介護福祉の未来が変えられるはずだ。

受賞者コメント

入賞作品に選んでいただきありがとうございます。作文は、介護ロボットが普及しつつある現代社会における介護の在り方と、いつの時代も変わらない人の温かさについて書きました。介護実習中に会ったサービス利用者の方々との心温まる関わりを大切に、福祉社会に貢献できる人を目指して邁進していきます。

遠山 萌々華さん



審査委員長のコメント

AIやロボットが「できないこと」の代表は、「こころやふれあいの問題」、ロボットが「できること」の代表は「労働の負担軽減」です。その点から見て、この作品の中で語られている内容は正鵠を射ています。また、AIをただ批判するだけではなく、それらを取り入れたうえで心やつながりを大事にしていこうという姿勢はいまの介護業界の状況をよく学べていると思います。

※学年は応募当時のものです。

ぜひ応募ください!

第6回

「介護福祉の未来」作文コンクール

一人ひとりの想いが、介護福祉の新たな未来を創ります。
これからの社会を担うみなさんの声を届けてください。

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生に介護や福祉の大切さを知り、未来について考える機会をもってもらうことを目的に、第6回「介護福祉の未来」作文コンクールを実施する。

昨年は、551編の作品が集まり、黒澤貞夫審査委員長(日本生活支援学会会長/浦和大学名誉教授)のもと厳正な審査が行われた。受賞者には、それぞれ賞状等が贈呈された。

入選作品は日本介護福祉経営人材教育協会ホームページ上で発表される。

ホームページにて応募方法や注意事項をよくご確認のうえ、ご応募ください。



私たちがから
伝えられることがある

© paylessimages - stock.adobe.com

趣 旨	将来を担う中学生、高校生が介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する機会とします。
募集期間	2021年6月1日(火)～9月6日(月) ※郵送の場合は必着
応募資格	中学生、高校生の方
テ ー マ	以下のテーマ(課題)の中から好きなものを一つ選んで、あなたが感じる事、考えることを自由に書いてください。 ● 介護や福祉に関する実体験等を通して感じたこと、考えたこと ● 自分の老後を想像して考えたこと ● これからの介護や福祉に関する私の意見



詳しい募集内容は一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会のホームページにてご案内します。

地域介護経営 Care Vision

地域のニーズをすくい上げ
地域から超高齢社会を支えていくための
視点を具体的事例とともに掲載

介護ビジョン

今月の

第1特集

どう売る? どう買う? 介護のM&A事情を探る

M&Aという言葉がビジネスシーンのみならず、介護業界でもよく聞かれるようになった。しかし、それはニュースなどで聞く言葉であり、その言葉を実態として感じている介護事業者は少ないだろう。本特集では介護業界のM&A事情とはどういうものなのかを紐解く。

introduction

外部からの情報に惑わされず
何が起きているのか見る目を養おう

point of view

大手と中小を同列に考えず
地域資源として5年後、10年後の事業戦略を描け

視点1 1+1=2にならないのがM&A
戦略を立てて、実行すべし
飯村芳樹(シムウェルマン株式会社 代表取締役)

視点2 勢いや無知はM&Aの大敵
情報収集や知恵袋を大切に
芝田幸司(株式会社ビス・ミディエーション 代表取締役)

事例1

事業譲受はドミナント展開の一方法
事業拡大のスピードアップに積極活用
株式会社ライフケア・ビジョン

事例2

福祉の維持・向上のための事業譲受は
“人をたすけて我が身たすかる”という
法人理念の具現化
社会福祉法人やすらぎ会

事例3

遠隔地の事業所を分割して事業譲渡
スムーズな譲渡には経営者の情報力も必要
株式会社三協メディケア
株式会社日本M&Aセンター

2021年6月号
(2021年
5月20日発売)



詳しくは「介護ビジョン」検索

- 毎月20日発行
- 定価: 1,320円(税込)
- 定期購読料: 15,840円(税込)
- ※会員価格は12,672円(税込)

第2特集

研修だけが予防策じゃない 虐待を生まない環境づくり

新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大に伴う試験の実施状況について

「介護福祉経営士」資格認定試験は試験サービスの提供先であるJ-Testingと連携し、会場において下記の感染防止措置を取ったうえで実施しております。

- ・会場の受付担当者、試験監督者のマスク着用徹底
 - ・受験に使用する机、PC等の清掃・除菌の徹底
 - ・定期的な換気の実施
- また、受験にあたってはマスクの着用が必須となります。

なお、体調不良の場合や職場やご家族で感染またはその疑いが出た場合など、新型コロナウイルス (COVID-19) に関する影響で受験ができない方は、試験日程変更期間 (試験日の3営業日前まで) を過ぎた場合でも、可能な限り早い段階でJ-Testingヘルプデスクまでご連絡ください。

J-Testing お問い合わせページ▶ <http://j-testing.jp/cbt/contact.html>

2021年度「介護福祉経営士」実践研修開催のお知らせ

「介護福祉経営士」実践研修は、「介護福祉経営士2級」から「介護福祉経営士1級」への等級変更の要件となっている研修です。例年、協会が認定した受講地・実施施設で行われ、講義や視察、演習などを行ってききましたが、昨年度より新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みWEBを利用したオンライン研修を行ってききました。今年度も引き続きオンライン研修の方式で開催いたします。

■開催日時 (予定):

7月25日 (日) 10:00~18:00

■募集期間:

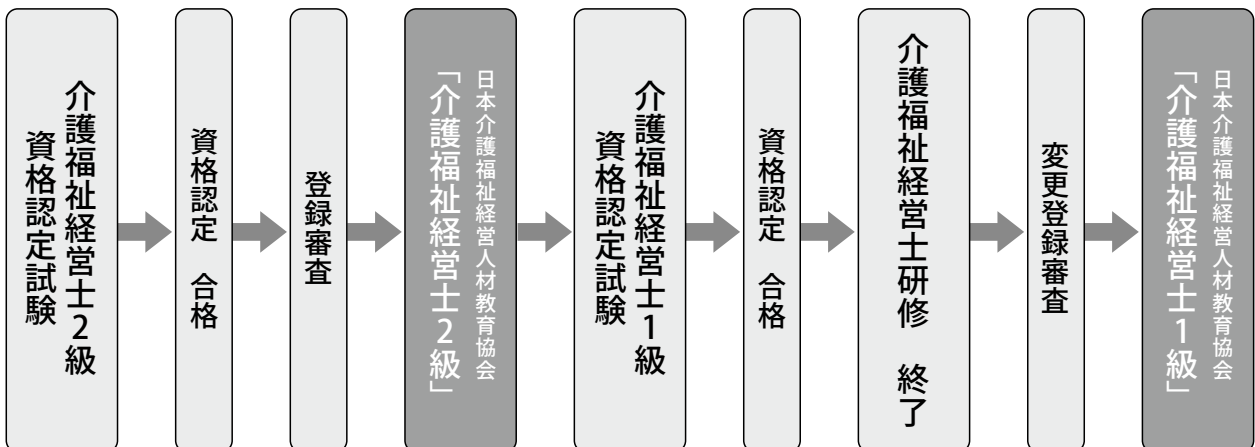
5月17日 (月) ~7月16日 (金)

■開催方法:

WEB会議用ソフトZoomを利用したオンライン研修



「介護福祉経営士」資格認定の流れ



実践研修の詳細は協会ホームページにてご確認ください。

<http://www.nkfk.jp/>



「介護福祉経営士」 資格認定試験のご案内

全国200会場で、受けたい日時に受験が可能 その場で合否が判定されます!

「介護福祉経営士」資格認定試験は、CBT方式で実施しています。

試験会場は全国約200会場から選ぶことができ、自分の予定に合った日程、時間に受験することができます。これにより、より多くの方々に受験機会が広がり、介護福祉業界のマネジメント人材として活躍していただけるよう、受験しやすく役に立つ教育システムとして進化しています。

受験方法や受験申込については、本会ホームページ (<http://www.nkfk.jp/>) にてご確認ください。

CBT方式とは…

CBTとはComputer Based Testingの略称で、問題用紙やマークシートなどの紙を使わず、パソコンで受験する方式のテストです。特定の受験日に一斉実施する紙ベースの試験とは異なり、全国の会場にて随時 (毎日*) 受験が可能となります。受験者は、会場と日程をWeb上で予約し、当日は会場のパソコンで受験します。

※年末年始を除く。試験会場によって異なります。【ご注意】新型コロナウイルス感染症の影響により、使用できる会場に制限が生じる場合があります。

介護福祉経営士に必要な知識や情報が得られるイベントを紹介。スキルを磨き、経営士同士が切磋琢磨できる場として人気の研究会も多いので、ぜひ参加しよう。

株式会社日本医療企画

“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾

【第1回】2021年5月22日(土) (終了しました)

テーマ:介護事業の経営分析を学ぶ

介護事業における経営分析から経営戦略策定までのプロセス
介護事業の外部環境 **終了しました**
介護事業の内部環境分析
介護事業のSWOT分析

【第2回】2021年6月19日(土)

テーマ:介護事業を拡大する経営戦略の策定を学ぶ(保険外サービスを含めて)

介護事業の経営戦略策定
介護事業における事業拡大の考え方
地域の市場性評価
介護保険サービスの市場性評価
保険外サービスの考え方

【第3回】2021年7月24日(土)

テーマ:介護事業の収益増加・費用削減と実行手法を学ぶ

介護事業における経営改善の考え方
収益増加の具体的な取り組み
費用削減の具体的な取り組み
経営改善プロジェクトを実行するための秘訣

■講師

古株靖久氏(こかぶ やすひさ)

生命科学修士、経営学修士、医療経営士2級、介護福祉経営士2級

大手製薬メーカーで約10年間の勤務を経て、有限責任監査法人トーマツに入所後、アドバイザリー事業本部ヘルスケアに所属。主に病院や介護事業における経営分析及び戦略策定から実行支援等のコンサルティングサービスを実施している。

熊田圭佑氏(くまだ けいすけ)

ヘルスケアマネジメント修士、社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉経営士2級
医療法人の本部・経営企画や介護老人保健施設の事務長等を経て、有限責任監査法人トーマツに入所後、アドバイザリー事業本部ヘルスケアに所属。主に厚生労働省の政策調査や介護事業所や公立病院に対するコンサルティングサービスを実施している。

■時間:14:00~16:00

■定員:50名(先着順)

■開催方式:Zoomによるオンライン配信

■参加費:各回1,000円

▼お申し込みはこちら



お問い合わせ

株式会社日本医療企画 関西支社

TEL:06-7660-1761

日本ヘルスケア経営学院

2021年度 介護報酬改定

重要ポイント徹底解説【WEBセミナー】

社会保障審議会介護給付費分科会委員でもある日本医師会常任理事の江澤和彦氏が改定の背景や目的を踏まえつつ各サービスごとの基準と報酬を解説。2021年度介護報酬改定の全容がわかる140分!

■日時:2021年1月29日(金)~6月30日(水)(視聴期間20日間)

■講義時間:全140分(全6動画)※オンライン視聴

■講師:江澤和彦氏(公益社団法人日本医師会常任理事、
社会保障審議会介護給付費分科会委員)

■参加料:8,800円(税込)

■お申込み:

https://hcmi-s.net/weblesson-hcm/webseminner_2021_kaigo/

お問い合わせ

日本ヘルスケア経営学院 事務局
((株)日本医療企画内)
TEL:03-3553-2862

株式会社日本医療企画

医療・介護経営セミナー2021

2021年度介護報酬改定から読み解く医療・介護事業者がとるべき
高齢者住宅の経営戦略とは

【第1部】介護報酬改定による住宅型サービス、地域密着型サービスのあり方

■講師:土井勝幸氏(医療法人社団東北福祉会 介護老人保健施設せんだんの丘 施設長)

【第2部】建ててから後悔しない高齢者住宅の企画ポイント

■講師:高橋元樹氏(ミサワホーム株式会社 営業企画部資産活用企画課、
福祉住環境コーディネーター2級・医療経営士3級)

【第3部】事業再構築補助金の活用について ~最大補助額1億円~

■講師:日向雅之氏(株式会社ひなた会計事務所 税理士・行政書士・CFP®)

■時間:2021年6月5日(土)13:00~16:10 ※セミナー後仙台会場にて個別相談を実施(16:10~)

■開催方法:仙台会場 & オンライン配信

※仙台会場:仙都会館(定員:30名)宮城県仙台市青葉区中央2-2-10

■参加費:無料

■共催:東北ミサワホーム株式会社

お問い合わせ

株式会社日本医療企画 東北支社

TEL:022-281-8536



介護福祉経営士 WEB説明会のご案内

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会では、「介護福祉経営士」資格や認定試験に関するWEB上での説明会を行っています。

これまで、当協会では介護福祉経営士の受験を検討する法人などを直接訪問し「出前説明会」を開催してきましたが、今後はWEBも活用しながら介護福祉経営士の普及に努めてまいります。

「介護福祉経営士」について、資格取得のメリットや勉強方法など様々な情報を距離・場所の制約なく入手していただける機会となりますので、ぜひご活用ください。

お申し込みは当協会ホームページ(<http://www.nkfk.jp/demae.html>)より承っております。

